

## 14. 失語症状とコミュニケーションの工夫

### I. 失語症とは

失語症とは、一度獲得された言語機能が、脳損傷によってダメージを受けることにより生ずる言語障害です。脳損傷の主な原因としては、脳梗塞や脳出血、脳腫瘍、頭部外傷や感染症などがあります。

### II. 失語症と構音障害の違い

脳損傷によるコミュニケーション障害には大きく分けて、構音障害と失語症があります。構音障害が、話し方（speech）の障害であることに対し、失語症は、言語そのもの（language）の障害です。つまり「聞く」「話す」「読む」「書く」全ての言語様式が、程度には差がありますが障害を受けます。

### III. 失語症の症状

軽度の方の場合は、長い文章になると、聞き誤る、時々言葉や文字が思い出せない、あるいは、間違えてしまうといった程度ですが、重度になると、全く言葉の通じない外国にいるようなものです。人の話し声は聞こえるものの、理解できず、文字をみても、内容がわからず、自分では正しく話しをしているつもりでも、相手には通じない、あるいは言葉が全く思い出せない、発語できないといったこととなります。失語症の方は、脳の中の「言葉の辞書」は保たれている場合が多いと言われていま

す。しかし、その取り出しがうまくいったり、いかなかったり、また、違う言葉を引き出してしまったり（例「リンゴ→みかん」）、語音の配列を誤る（例「リンゴ→ゴリン」）、引き出した言葉を上手く構音できないなど、人により様々な発話の障害がみられます。



### IV. 失語症の人の不自由さ

人は言語を使って、意志を伝達し、会話を楽しみ、思い出を語り合い、また、テレビや映画、ラジオを鑑賞します。その言語そのものに障害を受けると、どんな不自由さがでてくると考えられるでしょうか？まず、①情報が入りにくくなります。②自分の要求や思い身体の不調を伝えることが難しくなります。③会話を楽しむ機会が減ります。④過去や未来の話は特に難しいものです。⑤テレビや映画・ラジオの内容もわかりにくくなります。⑥目の前にはいない人への伝達（電話や手紙、パソコンなどの使用）が困難になります。

## V. コミュニケーションの方法

**1) 「話しかける場合」**—失語症の方に話しかける時には、次のようなことに留意して下さい。①短い文で、はっきりと、表情豊かに、早口にならないように心がけて下さい。②視覚的な情報（実物・指さし・絵やジェスチャー・数字や単語レベルの文字など）を提示しながら話しかけると理解が進みます。③一般に音の表記である仮名より、視覚的にイメージのしやすい漢字の方が理解されやすいものです。④言葉のでのくい失語症の方の場合は、「はい」「いいえ」で答えられるような質問の仕方をまずは試して下さい。少し言葉がでる方の場合、「Aですか？Bですか？」と2つの言葉を提示しての質問も答えやすいものです。⑤周りがにぎやかな場合や大勢の人に向けての話しかけの場合は、理解しにくいものです。大切な話は静かな場所で1対1が望ましいです。



**2) 「話を聞く場合」**—ご本人からの話を聞く上での注意点を挙げてみます。①言える言葉がとても少ない方でも、挨拶語などは一緒に斉唱したり、口形をみてもらったりすると、言いやすくなります。②言いたい言葉とは違う言葉がでてしまうのが失語症の特徴です。全体の文脈から推測して理解することが大事です。③事前にご本人の病前の仕事や家族構成、趣味や好物など様々な情報を仕入れておくと、言いたくても言えない言葉を推測することができ、会話がはずみます。④指さしや簡単なジェスチャー・文字や絵を書いて意思伝達をされる方もいます。紙と鉛筆、カレンダー、家族の写真、1日や1週間のスケジュール表、時計などを近くにおいておき、利用してもらいましょう。⑤排便や風呂、食事のことなど日常生活に必要な事柄は、絵+文字を書いたカードなどを利用しましょう。ご本人用のコミュニケーションノートを作成することも有効です。⑥目の前のことはなんとか表現できても、以前におこった事柄を会話として楽しむことはとても難しいものです。写真や絵、簡単な説明文や切り抜きなどを貼った「思い出ノート」は失語症の方の宝物になります。



**3)「その他」**—①言葉は言えなくても歌ならうたえる失語症の方は大勢います。②みんなが会話をする時には、絵や写真、文字など、視覚的なヒントとなるものを示しながら、発話を促していただきます。③失語症の方に限りませんが、脳損傷後の方々の多くは、自分の行動のフィードバックが難しく、また、自信をなくしておられます。日常の中の小さな成功と一緒に喜ぶ経験が、生きる意欲を引き出します。④脳損傷があっても、失語症であっても、たとえ思うような回復が難しくても、それでも「あなたが大切だ」と思ってもらえる環境の中で時間はかかっても第二の人生を着実に歩きはじめられます。



#### <参考文献>

- 「改訂 失語症の人と話そうー失語症の理解と豊かなコミュニケーションのために」編集  
NPO法人 言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会 和音 中央法規  
2008年改訂
- 「失語症のすべてがわかる本」 加藤正弘 小島知幸 監修 講談社 2006